

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	3071201390
法人名	社会福祉法人 皆楽園
事業所名	グループホームなごみ
所在地	和歌山県岩出市水栖644-1 (電 話) 0736-61-5566

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年2月28日	評価確定日	平成20年4月18日

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 14 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,290 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 150 円	昼食 350 円	
	夕食 300 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 76 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	榎本医院 西歯科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岩出市で長年福祉を幅広く展開し、地域に根ざしている皆楽園が運営するこのグループホームは、小規模多機能事業所と併設されています。平屋造りで2ユニットがつながっており、広い中庭もあり明るく、ホーム内も広々としています。ユニット毎に管理者が配置されており、管理者、職員は入居者の立場に立ち、「自分だったら」を常に考えながら、何でも話し合い、チームケアを大切に日々取り組まれています。家族との関係、地域との関わりも密で、日々の取り組みによる成果の結果が信頼関係へとつながっています。入居者は食事の準備をしたり、これまでの習慣の継続で不動参りをしたり、入居者同士も助け合いながら、温かい雰囲気の中で穏やかに過ごされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	前回の課題であった栄養面での栄養士によるチェック、ケアプランの家族の希望の記録については、改善に向けて取り組まれています。
②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
③	今回自己評価については全職員に自己評価票を配布し、管理者により意見を集約してつくり上げ、職員に回覧され、会議でも話し合われています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
②	家族、区長、民生委員、市役所職員が参加する運営推進会議では、ホームの活動報告をはじめ、地域のイベント情報や要望等を得る機会となり、出席者間での相談の場にもなっています。イベント開催時にも会議を実施しており、今後、「認知症とは」のテーマ等も考えられています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
③	家族がホームに来られた際や運営推進会議、年に1回実施している家族懇親会にて意見や要望を出せる機会を設けています。要望等については会議時に話し合い、運営に反映しています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
④	自治会に入会しており、地域の夏祭りに参加したり、回覧板で案内をしてホームの夏祭りにも地域の方に大勢参加してもらっています。近所の方がホームにお雛様を飾りに来たり、野菜や花を頂き、日々積極的にコミュニケーションをとっています。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人3つのグループホームの理念が掲げられており、入居者、地域のニーズに合わせて地域の中で、生き生きと暮らしていく事などを職員間で再検討し、理念を作り変えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者と接する上で自分だったら？を念頭に置き、その人の立場に立ったケアの実践に努めており、会議の際にも理念に立ち戻り話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、地域の夏祭りに参加したり、回覧板で案内をしてホームの夏祭りにも地域の方に大勢参加してもらっている。近所の方がホームにお雛様を飾りに来たり、野菜や花を頂き、日々コミュニケーションをとっており、地域の中にとけ込んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題であった栄養面での栄養士によるチェック、ケアプランの家族の希望の記録については、改善に向けて取り組まれている。今回自己評価については全職員に自己評価票を配布し、管理者により意見を集約してつくり上げ、職員に回覧され、会議でも話し合われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、区長、民生委員、市役所職員が参加する運営推進会議では、ホームの活動報告をはじめ、地域のイベント情報や要望等を得る機会となり、出席者間での相談の場にもなっている。イベント開催時にも会議を実施しており、今後、「認知症とは？」のテーマ等も考えられており、より一層地域での理解を進めようと努力されています。		

グループホームなごみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者と一緒に外向いて行ったり、何でも相談するようにし、連携をとりながら、サービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者ごとに担当職員が、毎月、今月、来月の行事予定の他、健康状態や日常生活ぶりなど詳しく書かれた報告を手書きで作成し、お渡ししている。利用料もあえて持ってきてもらうかたちにし、ホームに来られた際にも話しをしている。金銭報告については出納張にサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来られた際や運営推進会議、年に1回実施している家族懇親会にて意見や要望を出せる機会を設けている。要望等については会議時に話し合い、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる場合については、馴染みの職員が出来るだけ一緒に付き添い、日勤帯でお互いに馴染んでもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、外部研修に出来るだけ参加するようにしており、研修後は報告書を作成し、会議に報告し、レジュメも職員間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和歌山県のグループホーム連絡会に加盟しており、研修や交流を通じてサービスの質の向上を図っている。職員交換研修では様々な気づきにもつながり、良い取り組みとなっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学や遊びに来てもらい、お茶を他の入居者と一緒に飲んでもらいながら、ホームの雰囲気を見てもらっている。いきなりのサービス開始になった場合は、家族と相談しながら、馴染みの方に来てもらうなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りなどの日々の生活の中で一緒に過ごしながら、料理の方法や魚のさばき方、梅干のつくり方など教えてもらい、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いてアセスメントを行い、家族・本人に希望や意向を把握している。困難な方には家族からの情報を得たり、職員間で話し合いながら本人本位に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が自分らしく暮らせるよう、日々の生活の中で本人の思いや家族の希望を聞き取り、職員でカンファレンスを行い、ケアプランが作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3ヶ月毎に見直されており、毎月のケース会議でも全入居者についての話し合いを行い、1ヶ月毎の評価も行われている。状態が変化した場合についてはすぐに見直されている。		

グループホームなごみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買物や美容院、ドライブ、外食、御不動参りなどの個別外出や通院介助など、常にその時々要望に応じて柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望にそって、入居前からのかかりつけ医を支援し、緊急時の連携や往診のお願いなどしており、主治医と相談しながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームで出来る最大のケアについて説明をし、意向も確認している。重度化の場合についてはその都度、家族、医師、職員で話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議時において尊厳の大切について話し合いをしており、声掛けや誘導の際は誇りを損ねないように徹底している。個人情報については、事務所内の鍵付書庫に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、朝起きる時間や夜寝る時間なども自由で、本人のペースを尊重している。		

グループホームなごみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立も食べたい物を一緒に考えて、買物や調理、配膳、食事、後片付けも積極的に一緒にしている。庭で出来た野菜もみんなでおいしく食べられている。職員と一緒に和やかな雰囲気の中で楽しい食事となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望やその日の体調に合わせて支援されており、毎日の入浴や夕食後の入浴など、一人ひとりに合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の食事づくりや洗濯物をはじめ、裁縫や梅干づくり、畑仕事などを通してこれまでの生活歴や力を活かした支援をしている。また、ホーム内でぬり絵をしたり、歌を歌ったり、気分転換に買物やドライブなどで馴染みの場所にも出掛けたりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買物などに出掛けており、ホームの中庭や畑にも出られている。また、馴染みの場所に行ったり、外食や喫茶店へも行き積極的に外に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないケアの実践に取り組みまれており、見守りや外出の際は一緒に付き添っての支援をしている。地域が大切な見守りとなるため運営推進会議でも話し合いをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年に2回避難訓練を行っており、運営推進会議で訓練への参加の呼びかけを行っている。	○	運営推進会議の中でも、検討されておりますが、地域の消防団とも連携し、近所の方々にも、訓練に参加していただくなど、より一層の連携が望まれます。

グループホームなごみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面については法人の栄養士に定期的に献立をチェックしてもらい、アドバイスを受けている。食事量については毎食記録し、水分量については必要な方のみ記録をしている。また、一人ひとりの状態に合わせて、食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は大変広く、玄関は置物で工夫されており、中庭からの光が入り明るく、季節の花や木も眺められます。床の間のある和室にはお雛様やこたつ、季節の花が生けられ全体的に居心地良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室にお手洗いが付いており、馴染みのものを持ってきてもらうようお願いし、使い慣れたテーブルや椅子、テレビ、大切な仏壇など一人ひとりの居室づくりがされている。		